

おおの きみよ

【愛の友協会後援会長賞】 大野 喜美代

亡き夫へ

庭に、どうしてブランコを作ったかわかる？

遺品整理していたら「僕は雲になりたい」なんて、

小六の時のあなたの詩が出てきたの。

だからきっとあなたは雲になっている。

そう思って、いつも空を見上げているの。

雲は不思議。棺で安らかに眠るあなたの顔を雲に見ることがある。

副住職に、そのことを言ったら。

「いつかは笑う顔の雲に出会えますよ」って。

だから信じてブランコに乗っているの。

大切なあなたを失って、私はとても不自由よ。

左半身マヒだし、腎移植してからは入院ばかり。

トラックに轢かれたあなたの遺体確認から始まり、

「愛」という温かい日常が消えた悲しい私の物語。

瞼を閉じれば、笑うあなたが見えるけど。

あれから三年の歳月が過ぎ。あなたの声を忘れかけている。

あなたの声が聴きたい。

もう一度聴いておかないと、あなたが離れてしまう。

あの子が私の誕生日に結婚しました。

あなたが一度見たいと言っていたマイケルのダンスを、

みんなに披露してましたよ。とてもかっこよくね。

あなたにも見せたかった。

でも。

あの日。チャペルには、あなたがいて。

宴に来てくれたあなたの同僚一人一人に

「ありがとう」とお礼を言う姿が在ったように思います。

あの子は大丈夫。とても立派になりました。

裁判で、震えながら意見陳述を述べるあの子が可哀想でもあり、

逞しくもありました。

本当はね。雲じゃないあなたに会いたくて、

今日もブランコで涙が溢れてね。

会いたい。

